

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 5つのとりくみ（「あいさつ」「時間」「服装」「言葉づかい」「清掃」）の習慣を自主的に発揮できるように、さまざまな場面で生徒へ意識させている。特に、「時間を守ること」への意識の向上を、クラス、学年、学校全体へ、促してきた結果、全校集会のスムーズな開始、チャイム着席の定着など、全体生徒の時間を守る意識は高まってきている。
また、全学年一斉に毎月、遅刻指導日を設定し、各学年で遅刻の多い生徒への指導と、遅刻連絡カードを利用して、保護者への協力要請をおこなっている。遅刻指導の対象生徒数は、昨年度と大きな変化はないが、その中には、本人の生活習慣の乱れ、家庭環境の不備など遅刻が常習化して、大幅遅刻を繰り返すなど、改善が困難な生徒が一部にみられる。
- 昨年度は、地震・津波を想定した避難訓練を行った。職員には防災計画を配布し、緊急対応の方法を周知した。生徒にも訓練時に資料を配布し、避難の方法等を知らせた。学校評価アンケートの「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の肯定的回答が 80%以上を達成しており、一昨年度より 10%上昇した。また、事故防止の観点から熱中症予防や救急救命の研修会を行い資料も配布するなど、職員にも周知した。
- 地域との連携によりボランティア活動の推進を図ったり、小中連携・地域連携による地域行事参加や音楽コンサートを実施することで、人と人との交流を通して心豊かな青少年の健全育成を目指した。
- 昨年度は、校長室だより、学年だより、学校ホームページ等で学校・保護者・地域とで情報を共有し多くの方々に本校教育活動について関心を高めた。
- 昨年度は各学年でグループを作り、ローテーションしていくながら読み物教材は副読本の「あかつき」や個々に準備した資料などを使って全クラスを回る方式で授業を行った。11月には全学年全クラスで公開授業を行うことができた。引き続き、道徳の授業時間の確保をし、本年度は系統だった年間指導計画のもと、様々な内容項目の資料や読み物を使って授業を進めていく。

- 昨年度の学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は、2・3年生は指標の65%以上を達成できたが、1年生は達成できなかった。今年度以降は、特に新入生に対して家庭学習の重要性をしっかりと教え、家庭学習の方法を身に付かせる手立てを企てていく必要がある。
- 授業に関しては、昨年度の生徒の学校評価アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合は、全学年80%以上であった。保護者の学校評価アンケートの「学校は、子どもたちの学力充実のために努力工夫をしている」の肯定的評価の割合は、全学年70%以上であった。ほとんどの生徒、保護者において、十分達成できていると判断はできるが、更なる「わかる授業」の実現のために努力していくことは必要不可欠である。
- 昨年度の健康な生活アンケートで「意識して健康な生活をしている」については、肯定的回答の割合が2・3年生は80%以上であったが、1年生は75%であった。様々な機会を通して情報提供や啓発活動を行わなければならない。
- 思考力・表現力の向上をめざして、学校外のコンクールおよび作品募集等を活用し、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定した。特に、国語科、社会科、美術科では夏期休業中の課題として取り上げたこともあり、昨年と同様に多くの生徒が参加できた。また、2年生では人権教育に関するテーマで学年の取組として実施した。総数（累計）として、平成26年度は約470名、平成27年度は約1000名、平成28年度は約1500名が参加している。年々、教科および学年担当者が課題設定を工夫していることや積極的に生徒に奨励することで、応募数が増加し、生徒の意欲の向上や言語力の充実が図られている。

内容項目・タイトル	H26年度	H27年度	H28年度	H28年度入賞者数
英語検定	48名	72名	28名	
漢字検定		118名	82名	41名合格
税の作文	3年全員	3年全員	3年全員	8名入賞 (内1名代表で朗読)
税の標語	3年全員	3年全員	3年全員	1名入賞
読売新聞主催作文コンクール			1年1名	1名入選（優秀賞）
第60回全国学芸サインスコンクール（書道部門）			10名／390名	
交通安全ファミリー作文コンクール等			42名	
第49回手紙作文コンクール			1年20名 2年120名	1名入賞（佳作） 2年参加賞
“社会を明るくする運動”作文		3年10名	1年7名	参加賞
読書感想文		1・2年50名	1年全員	
生命保険に関する作文	4名	1・2年50名	1・2年36名	1名入賞（佳作）
人権啓発キャッチコピー		2年71名	2年全員	4名入賞
人権啓発標語		2年全員		
「夢」に関する絵画・写真コンクール		13名	46名	1名入賞（佳作）
大阪市読書感想画コンクール	23名	6名	8名	1名入賞
読書感想画中央コンクール		1名	1年1名	入選
大阪成蹊アート&コンペティション2016・2017		3名	3年1名	1名入賞（銀賞）
中国語弁論大会参加			2・3年2名	1名優秀賞
日本・スイス青少年交流使節団派遣選抜			3年1名	1名
適切なネット利用対策実践事例コンクール		生徒会	生徒会	佳作

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の決まり（校則）を守っている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の地域行事参加や音楽コンサート等の実施回数を、平成 28 年度より増加させる。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
- 平成 33 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 95%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 85%以上にする。

【その他】

- 平成 33 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 85% 以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 85% 以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。
- 平成 29 年度の地域行事参加や音楽コンサート等の実施回数を、平成 28 年度より増加させる。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 10 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 10 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。
- 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。
- 平成 29 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 95% 以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 85% 以上にする。

【その他】

- 平成 29 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○いじめアンケートで平成28年度は11件、平成29年度は27件と数的には増加しているが、そのほとんどが軽微なもので学校が認知しているいじめについてはほぼ解消している。

○校内調査における「学校の決まり（校則）を守る」という項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と肯定的に答えた生徒は2年生が92%、3年生が97%と上級生になれば高い数値を示しているが、1年生については84%と他学年より低く次年度については改善しなければならない。

○暴力行為について平成28年度は3件、平成29年度は4件と増加しているが、そのたびにきちんと指導をおこなった結果、同じ生徒が繰り返し暴力行為をすることはなくなっている。

○不登校生徒について平成28年度は22件、平成29年度は25件と増加しているが、小学校の時からや家庭内が原因での理由が多く、学校だけでは解決することができないため、引き続き子ども相談センターやサテライトなどとの関係諸機関との連携が必要と思われる。

学校園の年度目標

○平成29年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合は、1年79%2年91%3年95%であった。2年は1年時より6ポイント、3年は2年時より7ポイント上昇している。在学年が増えるほど上がる傾向があるといえる。

○平成29年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合は100%であった。3項目のうち「校内美化活動、環境整備」をより進める必要である。

○・「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」と「人権の大切さについて十分学んでいる」の肯定的回答は全学年とも、85%以上であった。「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的回答は全学年とも85%以上であった。「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」の肯定的回答は目標の85%に少し届かなかったが、平和学習会で『現代の戦争』について学び、1学年のフィールドワーク、2学年の職場体験、3学年の妊婦体験と進路学習など、各学年の総合的学習の取組の他、家庭科オープン講座『乳幼児ふれあい体験（ピヨピヨクラブ）』を行うなど、多様な取組を行うことができた。

・「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」の肯定的回答は88%であった。目標の90%には少し届かなかったが、今年度も学年教員によるローテーション方式を取り入れ、全教員が道徳の授業を行うことができた。「道徳授業の工夫・改善に努める」の肯定的回答は94%であった。今年度は私たちの道徳や副読本のあかつきに掲載されている読み物教材だけではなく、様々な読み物資料やグループ活動を通して、各教員が道徳授業を工夫することができた。

○学校評価アンケート(生徒)より「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について、肯定的に回答した割合は1年 60%、2年 75%、3年 75%であった。学校での教育活動としては、2年生による地域清掃、職場体験、土曜授業での防災訓練、乳幼児ふれあい体験、図書館開館等の学校元気アップ事業による活動等が関連している。また、地域行事の際、地域住民として自らボランティア活動に参加したりなど、地域貢献している生徒も多く見られる。地域の人々と連携して活動することで、地域住民としての自覚をもたせるとともに、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めさせる活動が今後も大切である。

○吹奏楽部が、校区幼稚園や地域の行事に出向いての演奏会、地域の方々が学校に来られて行う演奏会を実施した。地域関連の行事数は6つで昨年度と同数であるが、いずれも充実した活動ができた。特に、大阪マラソンでの沿道応援演奏では、演奏することで市民ランナーの皆さんから感謝の気持ちをダイレクトに返していただき、そのことによってさらに頑張って応援しようという気持ちになるなど、双方の相乗効果でさらに達成感・成就感が味わえた。見に来られた保護者・地域の方々にとっても心温まる活動となつた。

○学校評価アンケート(保護者)の「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」という項目で、1年 93%、2年 82%、3年 87%であった。通信やホームページ等で情報を提供しているが、中には保護者に連絡が届いていないケースもしばしばあり、配付プリントを全てホームページに掲載してほしいという要望もある。ホームページの有効活用についての見直しと改善が必要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 29 年度の中学校チャレンジテスト(3年生)における標準化得点は、下表のとおり前年度より全教科において大幅に向上させることができた。(国+7、社+6、数+21、理+5、英+16)
 平均点についても大阪市・大阪府よりも全て上回り、+4.5～11.0 の差をつけてアップしている。
 2年生の標準化得点については、前年度の2年生に比べて全ての教科で下回った。
 (国-6、社-7、数-17、理-4、英-4)
 1年生の標準化得点については、前年度の1年生に比べて国語は 3 ポイント上回り、英語は 5 ポイント下回った。(国+3、数+0、英-5)

《 H28・29 年度 中学生チャレンジテスト (3年生) 》

	国語		社会		数学		理科		英語		全教科	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
堀江中平均	60.9	67.0	53.1	59.0	47.0	58.2	43.3	55.8	57.4	55.6	261.7	295.6
大阪市平均	58.8	61.6	52.7	54.5	47.1	47.9	37.6	47.7	56.8	46.9	253.0	258.6
大阪府平均	59.6	61.7	52.2	54.4	48.1	49.0	38.6	47.7	57.9	48.4	256.4	261.2
市との差	+2.1	+5.4	+0.4	+4.5	-0.1	+10.3	+5.7	+8.1	+1.1	+11.0		
府との差	+1.3	+5.3	+0.9	+4.6	-1.1	+9.2	+4.7	+8.1	-0.5	+7.2		
標準化得点 (市)	104	109	100	108	98	122	115	117	101	119	103.4	114.3
標準化得点 (府)	102	109	102	108	98	119	112	117	99	115	102.1	113.2

« H28・29 年度 中学生チャレンジテスト（2年生）»

	国語		社会A		数学		理科B		英語		全教科	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
堀江中平均	62.4	71.5	48.0	50.8	61.2	61.1	67.4	68.1	56.2	60.3	295.2	311.8
大阪市平均	56.9	69.3	43.1	48.6	49.6	58.0	59.5	62.2	51.3	58.1	260.4	296.2
大阪府平均	58.1	70.5	43.8	49.3	51.3	59.7	60.1	63.1	53.3	59.4	266.6	302.0
市との差	+5.5	+2.2	+4.9	+2.2	+11.6	+3.1	+7.9	+5.9	+4.9	+2.2		
府との差	+4.3	+1	+4.2	+1.5	+9.9	+1.4	+7.3	+5.0	+2.9	+0.9		
標準化得点 (市)	110	103	111	105	123	105	113	109	110	104	113.4	105.3
標準化得点 (府)	107	101	110	103	119	102	112	108	105	101	110.7	103.2

« H28・29 年度 中学生チャレンジテスト（1年生）»

	国語		数学		英語		3教科	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
堀江中平均	68.6	59.1	53.1	59.4	65.1	71.6	186.8	190.1
大阪市平均	67.0	56.3	50.6	56.7	60.8	70.2	178.4	183.2
大阪府平均	68.3	57.4	52.5	58.6	62.7	72.5	183.5	188.5
市との差	+1.6	+2.8	+2.5	+2.7	+4.3	+1.2		
府との差	+0.3	+1.7	+0.6	+0.8	+2.7	-0.9		
標準化得点 (市)	102	105	105	105	107	102	104.7	103.8
標準化得点 (府)	100	103	101	101	104	99	101.8	100.8

○平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以下の生徒を同一の母集団で比較すると、下表のとおり、3年生は前年度より国語は 5 ポイント、社会は 25 ポイント、英語は 3 ポイント減少したが、数学は 8 ポイント、理科は 24 ポイント増加した。
2年生については前年度より数学が 19 ポイント減少した。
1年生については今年度の結果を示している。

« 58 期生 中学生チャレンジテスト » 現 3 年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H28	H29								
5割以上(%)	79	84	46	71	74	66	81	57	60	63
5割以下(%)	21	16	54	29	26	34	19	43	40	37

『59期生 中学生チャレンジテスト』 現2年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H28	H29								
5割以上(%)	88	86			47	54	73		80	75
5割以下(%)	12	14			53	46	27		20	25

『60期生 中学生チャレンジテスト』 現1年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H29		H29		H29		H29		H29	
5割以上(%)	71				68				84	
5割以下(%)	29				32				16	

○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の生徒を同一の母集団で比較すると、下表のとおり、3年生は前年度より国語は14ポイント、社会は18ポイント増加したが、数学は3ポイント、理科は20ポイント、英語は5ポイント減少した。

2年生は前年度より国語は9ポイント、数学は12ポイント増加し、英語は6ポイント減少した。

『58期生 中学生チャレンジテスト』 現3年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H28	H29								
7割以上(%)	39	53	13	31	38	35	50	30	23	28

『59期生 中学生チャレンジテスト』 現2年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H28	H29								
7割以上(%)	52	61			22	30	42		55	44

『60期生 中学生チャレンジテスト』 現1年生

	国語		社会		数学		理科		英語	
	H29		H29		H29		H29		H29	
7割以上(%)	28				35				59	

○平成29年度の校内調査(「全国学力・学習状況調査」より“生徒質問紙”)における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、前年度より8.3ポイント増加した。ほぼ全国レベルに達しているといえるが、まだ1.1ポイントの差がある。

	H28年度	H29年度
堺江中学校	55.4%	63.7%
大阪市	52.7%	51.9%
大阪府	58.0%	57.5%
全国	64.8%	64.8%

学校園の年度目標

- 学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答回答の割合の結果は、1年生は46%、2年生56%、3年生は80%であり、3年生は指標の75%以上を達成できているが、1・2年生は達成できていない。学年が上がるにつれて、家庭学習の定着率が高くなっている。特に3年生は、昨年度は67%だったので13%上昇している。やはり、高校受験を意識して学習に対しての取り組む姿勢が積極的になっていると考えられる。しかしながら、本校において「家庭学習の定着」はここ数年的重要課題のひとつである。特に、1・2年に対しては、来年度も今年度に引き続き、「家庭学習の定着」にポイントをおいて指導していく必要がある。
- 学校評価アンケート調査の「授業はわかりやすい」の肯定的回答回答の割合の結果は、1年生は79%、2年生は87%、3年生は97%、「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」の肯定的回答回答の割合の結果は、1年生は71%、2年生は78%、3年生は83%となっている。指標の85%を達成できているのは2・3年生の「授業はわかりやすい」のみである。この結果を踏まえて、さらに来年度も充実した授業作り(習熟度・TT)の研鑽を推し進める必要がある。
- 学校評価アンケート調査の(保護者)の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」の肯定的回答回答の割合の結果は、1年生は71%、2年生は73%、3年生は83%、「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」の肯定的回答回答の割合の結果は、1年生は79%、2年生は73%、3年生は85%となっている。3年生の保護者が、指標の80%を達成できている。
- 学校評価アンケート(生徒)の「授業でICTを活用して工夫している」について肯定的回答回答の割合は70%程度と目標の80%に届かなかったが、教材提示などの簡単な使用も含めるとICTを活用している教員は57%と昨年度の34%から大きく上昇した。また、タブレットを生徒単位もしくはグループ単位で使用する教員も出始めるなど、ICTの使用は増加している。
また、ICT機器を校内(玄関)にも設置することで、暗かった玄関付近を少しでも明るくし、環境改善に役立てている。現在は、学校案内版として学校概要を流しているが、今後ますますの有効活用を図っていく必要がある。
- 平成29年全国体力・運動能力、運動習慣調査結果より、の男女ともに課題であった全身持久力を示す20Mシャトルランについては、昨年度→今年度を示すと、男子75.16→80.75(+5.59)、女子53.01→53.73(+0.72)とアップした。また、全国との差が男子は11.08→5.24ポイント、女子は5.79→5.41ポイントに縮小し、昨年度より改善が見られた。しかし、全国平均には達していない。
- 3学期に行ったアンケートの「食事について以前より意識して気をつけるようにしたか？」に対し、36.3%が「気をつけるようにした」と答えており、3割以上の意識の改善が見られる結果であった。また、「手洗いうがいは以前より意識して行うようになったか？」に対しては、52.9%の者が「行っている」と回答しており、半数以上の意識の改善が見られる。季節的なものも関係しているかもしれないが、今後とも、普段から健康について意識できるよう啓発していきたい。

【その他】

○平成 29 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数について、平成 28 年度よりも参加数は約 1500 名から約 1900 名に増加するとともに、参加部門数も新しく 10 部門増加した。

言語力や表現力、論理的思考能力の育成をねらいとして、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定している。その一つに言語活動・表現活動に関する各種コンクールへの参加や出品を、夏期休業中の課題にし、生徒がいくつかの課題から自ら選択して取り組めるよう工夫した。

特に国語科、社会科、美術科では、昨年と同様に多くの生徒が参加することができた。各種検定についても参加募集や案内ポスターを掲示して奨励し、漢検は校内でも 2 回実施した。

また、それらのポスターを見て自発的に作品を提出する生徒も出てくるようになってきた。

教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒にすすめることや、全校集会等で表彰し HP でも披露することで、年々、生徒の関心意欲の向上や言語活動の充実が図られている。なお、今年度の現在の参加状況等については p 21 の通りである。(★は今年度新設分)

大阪市立堀江中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）	
○ 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。	A
○ 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。	B
○ 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	A
○ 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	B
学校の年度目標	
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。	B
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。	A
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。	B
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。	A
○ 平成 29 年度の地域行事参加や音楽コンサート等の実施回数を、平成 28 年度より増加させる。	B
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・いじめ・暴行の被害の早期発見・早期対応のため、「いじめ調査」「被害調査」を実施する。	A
指標 ・「いじめ調査」は各学期末、「被害調査」は1・2学期初めに実施する。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・防災・減災教育を実施し、安全を守るための力の育成をめざす。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ・避難訓練、防災、防犯についての取り組みを年間3回実施する。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・道徳の授業時間を確保し、本年度は系統だった年間指導計画のもと、様々な内容項目の資料や読み物を使って授業を進めていく。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ・年間35時間の道徳授業を実施する。 ・年間5回の道徳教育委員会を開き、今年度の道徳教育の充実を図る。	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・我が国の伝統文化や芸術鑑賞の機会を設定し、芸術に親しみ伝統や文化を大切にする豊かな心を育成する。	A
指標 ・鑑賞会後のアンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を80%以上にする。	
取組内容⑤【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ・地域行事参加や音楽コンサート等の実施を通して地域に開かれた学校を構築する。 ・ホームページで、学校の状況を公開する。 (ガバナンス改革関連)	B
指標 ・平成28年度より多くの地域行事や音楽コンサートへ参加し、満足度を90%以上にする。 ・ホームページの閲覧数を平成28年度より増やす。	
取組内容⑥【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ・地域ボランティアや学校図書館補助員と連携し、学校図書館を「読書センター」及び「学習センター」としての機能をさらに高め、学校図書館の活性化を図る。 (ガバナンス改革関連)	A
指標 ・平成29年度の学校図書館の利用者を平成28年度より増やす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について ① 施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・各学期末に「いじめ調査」、長期休業後の学期初めに「被害調査」を実施することで被害を早期に発見でき速やかに対応することができている。	

②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

・6月に地震津波1月に火災を想定した避難訓練を実施した。その際、防災パンフレット及び火災に関するプリントを生徒全員に配布した。アンケートの「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている。」にあてはまるA Bの合計は1年79% 2年91% 3年95%で3年生は中間反省より5ポイント上昇した。また1学期の行事として2年で防災教室（消防署と連携）、3年で防犯教室（警察署と連携）はともに定着し、内容も精選されてきた。

③【施策2 道徳心・社会性の育成】

今年度の道徳授業も昨年同様に各学年でのローテーション方式を採用し、全教員が道徳授業を行うことができた。また、行事を道徳的観点と照らし合わせながら取り組むこともできた。資料も副読本の資料だけではなく、様々な資料を使用し、グループ活動を取り入れていきながら生徒の道徳授業に対する意欲を高めることができた。しかし、年間35時間の道徳授業を確保することは難しく、3年生では進路関係の取り組みまるため、教科化に向けて学習活動を精査していく必要がある。

④【施策2 道徳心・社会性の育成】

芸術鑑賞会は、音楽・伝統芸能・演劇を1サイクルに、3年間でいずれかを鑑賞できる体制を推進している。今年度は音楽の部門より、管弦楽（オーケストラ）のコンサートを実施した。実施団体を教務部視聴覚担当でいくつか厳選して実施に至った。生徒たちはプロの生演奏を聴くことや指揮の体験することで、音楽の持つ魅力をさらに味わうことができた。鑑賞後のアンケートは「生徒の教育活動にとって有効であった」という回答について「そう思う」が97%であった。

今後も選定する段階で、生徒にとって有意義な鑑賞会になるよう十分に吟味することが重要である。

⑤【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

・吹奏楽部による活動として次のとおり各行事で演奏し、地域の方々との交流を図った。満足度は約100%であった。7月には日吉幼稚園「サマーフェスティバル」、9月には高台公園での「にし恋マルシェ」（台風のため中止）、11月には、「西区文化のつどい」、校区小学校との「小中合同音楽コンサート」、日吉小学校プラスバンド部とともに「大阪マラソン沿道応援演奏」、12月には本校で「高台敬老会」（演奏と食事）を行った。行事数としては昨年度と同数であるが、生徒たちにとっても有意義な活動となつた。今後も、行事を通して地域の人々とふれあい、つながりを深めていくことで、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めていく。

・ホームページについては生徒の活動や連絡等を中心に保護者・地域にほぼ毎日発信している。

アクセス数については100～150件／日を上下している。より多くの閲覧者を増やすためにも、さらなる工夫が必要である。

《HPアクセス数について》

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度（2/7現在）
36,027	42,888	45,393	39,325件

⑥【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

学校図書館の整備が進み、明るく居心地の良い空間ができ、毎日図書館に行くことを楽しみにしている生徒も多い。元気アップ事業コーディネーターと学校図書館補助員、図書館担当と連携し、今年度より月に1回の「おはなし会」を始めている。今年度は7回実施したが、集まつてくる生徒も順調に増加し、和やかな読書時間を過ごすなど、「読書センター」としての機能が高まってきた。昼休みおよび放課後も毎日開館することができ、毎日利用する生徒もいる。

また、「学習センター」として、テスト前の「自主学習会」にも参加する生徒も多い。11月末より学習ボランティアも来られ、自作ポスターで生徒たちに呼びかけ、熱心に学習支援に取り組んでいただいている。今後は、自習机の整備を充実させることが課題である。

≪図書館利用人数・開館日数について≫

	H28 年度				H29 年度			
	昼休み		放課後		昼休み		放課後	
4~1月	2037 人	103 日	843 人	93 日	2160 人	125 日	1227 人	154 日
平均人数	20 人／日		9 人／日		17 人／日		8 人／日	

次年度への改善点

- ① 今年度同様に学期初めに「被害調査」、各学期末に「いじめ調査」を実施し被害を早期に発見し迅速な対応をしていく必要がある。また、教育相談や日頃から生徒とコミュニケーションをとることで生徒達が安全で安心して登校できる環境をつくる必要がある。
- ② 避難訓練を避難行動だけでなく、防災学習の視点で実施していく必要がある。具体的には、訓練後資料を読む時間を確保し生徒の防災に対する知識や意識を高めていきたい。
また、地域の役所、消防署、警察署による教室も引き続き体験させたい。
- ③ 再来年度の道徳教科化に向けて、年間35時間の授業時間を確保する必要がある。まずは教育活動を精査していく、道徳の時間には道徳授業を行うことを原則としていく。また、読み物資料の使用を基本しながら様々な教材を柔軟に道徳教育に取り入れていくことが必要である。道徳教育は道徳の授業だけではなく、教育活動全体で行われるものなので、様々な活動や取り組みを道徳的観点から考え、進めていくことで道徳の授業時間の確保につながるので、来年度も学校全体で道徳の教育活動がさらに活発にしていきたいと考えている。
- ④ 生徒に生のオーケストラ演奏を聴かせることにより、表現力や豊かな感性を養うことに有効であったと思われる。また、鑑賞態度も良好であり、鑑賞力も高まったと思われる。来年度は伝統芸能を鑑賞する年であり、事前に予備知識を導入することにより、より生徒にとって有意義な時間になるよう努めたい。
- ⑤ 地域に開かれた学校づくりに向け、生徒たちが頑張っている姿を地域の人々に見ていただく機会ができるだけ多く設定したり、学校ホームページに生徒たちの活躍ぶりを掲載したり、保護者集会で生徒たちのよく頑張っていることを先生方よりお話していただいたりすることで、保護者・地域が中学校に关心を示し、地域が学校をさらに支援していただける体制作りを構築していく。
- ⑥ 読書人口を増加させるためにも、「おはなし会」を今後も継続し、今まで参加したことのない生徒にも本の楽しさを知り、読書に興味関心を高めさせていく。また、自主学習できる学習ブースを整備したり、学習に活用できる参考書や問題集等も整えたり、学習センターとしての環境を充実させていく。

大阪市立堀江中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標(小・中学校)	
○ 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける平均点を、前年度より向上させる。	A
○ 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 10 ポイント減少させる。	B
○ 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 10 ポイント増加させる。	B
○ 平成 29 年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	B
学校の年度目標	
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。	C
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85% 以上にする。	C
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。	C
○ 平成 29 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。	C
○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。	C
○ 平成 29 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 95% 以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 85% 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用プリント教材を用意する等、家庭学習が定着するように工夫する。 ・教科会等で連携を取り、習熟度授業、チームティーチングを充実させる。 ・土曜授業参観等で保護者のアンケートを取り、授業の研鑽を図る。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を75%以上にする。 ・実施した習熟度授業、チームティーチングの時間数を、全授業時間数の3分の1を超えるようにする。 ・土曜授業参観でのアンケートについて肯定的回答の割合を70%以上にする。 	B
<p>取組内容②【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育委員会でICTの活用状況を報告し、ICTを活用した授業を充実させる。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業を、全教科で実施する。 	B
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業に全身持久力を高める運動を取り入れ、継続する。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業の中で毎回筋力トレーニングを実施する。 	B
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや掲示物などを通じて、意識して健康な生活をするように情報提供や啓発活動を行う。 <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活アンケートの全項目において、年度末の肯定的回答の割合を年度当初より上昇させる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容】について</p> <p>①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>・家庭学習の定着に関しては、ここ数年の本校の重要課題のひとつである。学校評価アンケートの「家で学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答が、1年46%、2年56%、3年80%と3年生は指標の75%以上を達成できているが、1・2年生は達成できていない。今後、学校だけではなく家庭と連携をとって、家庭学習の定着を図る必要がある。ただ、3年に関しては、高校受験を控えているとあって、この1年間で13p上昇している。</p>	

- ・学校評価アンケートの「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」に対する肯定的回答が1年71%、2年78%、3年83%と、生徒もその成果を概ね感じているようである。しかし、今年度の指標の85%を下回っている。ただ、「授業はわかりやすい」に対する肯定的回答は、1年79%、2年87%、3年97%と2学年が指標の85%を超えており、本校の授業の質は高いと考えられる。
- ・土曜授業参観に関しては、保護者アンケートの肯定的回答が1年81%、2年74%、3年75%と指標の70%以上を達成できている。

② 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

全普通教室にプロジェクターを配備し、授業用パソコンも使用する先生毎に貸し出すなど授業準備がしやすいように考慮した。また、教科の授業以外でも積極的にタブレットの使用を促すなど利用する場面を増やしている。

③ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

毎時間の授業始めにランニングを取り入れ、また準備運動後に腕立て伏せや腹筋運動等の補強運動を取り入れることにより、筋持久力アップに繋げている。

④ 【施策8 健康や体力を保持増進する力の育成】

保健だよりは毎月発行し、保健室前の掲示物も定期的に内容を変更し、健康への情報発信を行っている。一学期の健康アンケートの結果、「朝ごはんをきちんと食べている」は79.6%とやや低い結果となっている。また、「手洗いを行っている」の肯定的回答は88.4%、「うがいを行っている」の肯定的回答は66.9%で、手洗いは行っているがうがいは充分行っていない結果がうかがえた。健康な生活を維持するために、様々な場面において啓発活動を行っていく必要がある。

次年度への改善点

① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】

「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」に関しては指標に届いていない学年もあるが、一定の成果を上げていると考えられる。更に、授業研究を推し進めていくことが大切である。「授業の復習」に関しては、特に1・2年の結果は改善を要すると考えられる。教科だけでの対応ではなく、学年全体での取り組み、学校全体としての取り組みが今後必要かと考える。

また、土曜授業参観に関しては、保護者アンケートの肯定的回答が1年81%、2年74%、3年75%と指標の70%以上を達成できている。但し、来年度は年6回から3回と減少するので、参観の内容について十分に配慮する必要がある。更に、平日の授業参観の実施を要望する声が上がっており、その要望に対しても対応することが必要である。

② 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

夏休みや3学期にICT機器の使用方法や授業用パソコンのパスワードの設定などの講習会を実施したことにより、ICT機器を活用する教員が増加した。現在は半分以上の教員が何らかの形でICT機器を活用している。教科では教材提示に留まらず、タブレットを使用した協働学習も行われている。また、教科授業だけではなく、道徳や学活での活用も積極的に行われている。ただ、全教科の使用には至っていない。

③ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

活動場所、体育施設や用具の確保が必要と思われる。また、単に筋力トレーニングだけでなく体幹から鍛えていくトレーニングを取り入れる。

④ 【施策8 健康や体力を保持増進する力の育成】

健康アンケートの内容も検討し、生徒の健康問題がよりわかるよう考えて行きたい。また、保健委員を積極的に活動させるなど、日ごろから健康について意識できるよう取り組んでいきたい。

大阪市立堀江中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 <input type="radio"/> 平成 29 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】 ・言語活動に関する各種取り組みの成果や案内等の情報を伝え、積極的に参加させる。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 ・平成 29 年度の学校外のコンクールおよび作品募集や各種検定等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【取組内容】について ① 【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】 平成 29 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数について、平成 28 年度よりも参加数は約 1500 名から約 1900 名に増加するとともに、参加部門数も新しく 10 部門増加した。 言語力や表現力、論理的思考能力の育成をねらいとして、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定している。その一つに言語活動・表現活動に関する各種コンクールへの参加や出品を、夏期休業中の課題にし、生徒がいくつかの課題から自ら選択して取り組めるよう工夫した。 特に国語科、社会科、美術科では、昨年と同様に多くの生徒が参加することができた。各種検定についても参加募集や案内ポスターを掲示して奨励し、漢検は校内でも 2 回実施した。 また、それらのポスターを見て自発的に作品を提出する生徒も出てくるようになってきた。 教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒にすすめることや、全校集会等で表彰し H P でも披露することで、年々、生徒の関心意欲の向上や言語活動の充実が図られている。なお、今年度の現在の参加状況等については p 20 の通りである。(★は今年度新設分)
次年度への改善点
次年度も継続して、思考力・判断力・表現力の育成および言語力の向上を重視し、学校外の各種コンクールや大会、作品応募等を活用し、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定する。現在中心となっている国語科、社会科、美術科、人権教育担当以外の教員も協力し、生徒への課題設定の仕方を工夫するとともに参加・応募を奨励し、全教科・領域の授業および行事等、教育活動のあらゆる場面で言語活動の充実を図る実践をすすめていく。

平成 29 年度 検定・各種コンクール・コンテスト・発表等の結果について

大会・コンクール・コンテスト等名称	応募数(参加数)／提出数	入賞者数
英語検定	76 名	
漢字検定	97 名	
税の作文	3 年全員	6 名入賞 (内 1 名代表で朗読)
税の標語	3 年全員	優秀賞 2 名 (3 年)
JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト★	16 名／16 名	
田辺聖子文学館ジュニア文学賞★	3 名	
人権啓発詩・読書感想文★	5 名／8 名	
わたしたちのくらしと生命保険作文コンクール	21 名／23 名	
交通安全ファミリー作文コンクール	17 名／20 名	
手紙作文コンクール	はがき部門	5 名／21 名
	絵手紙部門	20 名／20 名
思わず笑顔になる文章コンテスト★	4 名／7 名	
河野裕子短歌賞	20 名／23 名	入賞 2 名 (2 年)・入選 2 名 (2 年) 最優秀校受賞
“社会を明るくする運動”作文	7 名／12 名	
学芸サイエンスコンクール★	書道部門	10 名／358 名
	小説部門	2 名／3 名
	詩部門	2 名／5 名
	読書感想文部門	3 名／3 名
	作文部門	1 名／11 名
私の折々のことばコンテスト★	4 名／18 名	
青少年読書感想文全国コンクール	53 名	
全国小・中学校作文コンクール(読売新聞社)	55 名／74 名	佳作 1 名 (1 年)
青春俳句★	3 年全員	
2017 産経ジュニア書道コンクール(自主応募)	1 名 (1 年)	中学生以下ジュニア賞受賞 1 名 (1 年)
全日本小・中学生書道紙上展	1 名	入選 1 名 (2 年) 準ベスト 50
人権啓発キャッチコピー	1・2 年全員 3 年有志 2 名	優秀賞 1 名 (2 年) 佳作 3 名 (2 年)
絆に関する絵画・写真コンクール 『絵画の部』	83 名	最優秀賞 1 名 (2 年) 特別賞 1 名 (2 年)
大阪市読書感想画コンクール	8 名	優良賞 1 名 (2 年)
大阪成蹊アート&コンペティション 1017	3 名	銅賞 1 名 (2 年)
ワールドトーク★	2 名 (2 年)	
生徒理科研究発表★	1 名 (1 年)	佳作 1 名 (1 年)
大阪市中学校放送コンテスト新人大会★	4 名 (2 年)	